



## 「私にしか言えない言葉」

私たちが「言葉にすること」をあきらめない理由

### 言

葉には、未来を拓く力があ  
ります。例えば、『プレバ  
ト!!』は、夏井いつき先生

が芸能人の俳句をバシバシと添削する  
ところに面白みがありますが、番組の  
開始当初は、芸能人の才能アリ・ナシ  
のランキングショーにもっと重きを置いて  
いました。その後気づいたのが、視聴  
者が見たいのは添削前後のギャップだと  
いうこと。そこで浮かんだのが、「知の  
ビフォー・アフター」という言葉でした。

これが『プレバト!!』のコアアイデアが  
言語化できた瞬間で、企画選定の基  
準になりました。番組の総合演出を  
担当する私は、どんな番組を作りたい  
のかをスタッフたちに向けてシンプルな  
言葉で提示しなければなりません。明  
確な言葉を手に入れたことで、番組の  
方向性が定まり、視聴率1位をキ  
プし続けられるようになりました。

一方で、言葉には限界もあります。  
私は普段から「言葉ではすべては伝わ  
らない」という前提でコミュニケーション  
を取っています。伝えたいイメージを  
100%言語化することも、1から1  
00まで完璧に相手に伝えることも不  
可能で、「正確に伝わっている」というの  
は思い込みであり、ある意味で傲慢だ  
と思うんです。言葉では100%伝わ  
らないという前提に立ったとき、目指  
すというのが「ほぼ共感」です。映像

が脳内で再生されるような具体例や  
あるあるを交えて伝えれば、互いがイ  
メージしている情景が完全には一致せ  
ずとも、相手の認識はほぼ許容範囲  
内に収まる人が多いんです。特に言  
語化しづらいニュアンス論が飛び交う制  
作現場では、「ほぼ共感」を心がけたほ  
うが話し合いやコミュニケーションがス  
ムーズに進みます。

「ほぼ共感」の力を実感したのも、『プ  
レバト!!』で俳句に出会ってからです。  
たった十七音しかない俳句では、楽し  
い、悲しいといった感情を言葉にせず、  
美辞麗句も使わない。情景描写に徹  
します。具体的にイメージできる映  
像と季語を取り合わせることで、読  
み手の五感や過去の思い出を刺激して、  
4Kテレビをも凌駕する情景を伝える  
のです。十七音でも情景を伝えられ  
るので、普段の対話や文章なら  
きつと可能なはずですよ。そもそ  
も言葉にすることに正解はないはず。

完璧を目指しすぎず、「相手とイメ  
ージを擦り合わせていこう」程度の気持  
ちで臨むことが大切だと思っています。  
研ぎ澄ませば思考に軸ができるし、  
新たなものも生み出せる。でも、すべ  
てを表現できるわけではない。この言  
葉の強さともろさを認識することで、  
言葉とうまく向き合えるのではないで  
しょうか。

番組の収録時は、常にMCの正面に座るという  
水野さん。「出演者の何気ないひと言を聞き逃す  
ことなく、ライブ感ある演出を心がけています」



Reason

## 02 — 100%は伝わらないし、正解もない。 肩の力を抜いて、自分の言葉で伝えたい

株式会社 毎日放送  
東京制作部 スペシャルエキスパート(部長職)  
水野雅之さん

みずの・まさゆき ● 愛知県春日井  
市出身。慶應義塾大学商学部卒  
業後、2000年に毎日放送に入  
社。現在は、『プレバト!!』の総合演  
出を担当し、TBS系ゴールデンタイ  
ムの番組を牽引する。他に『初耳  
学』なども企画・演出・プロデュース。  
また、近年はYouTubeやTikTokな  
どテレビ番組以外のシーンでも活  
動の幅を広げている。

